



ftServerにおけるログ取得方法の概要(Windows編)

内容: ftServerに関する障害調査を行う際に、必要となるログ・データの取得方法になります。初期解析用のデータの取得方法と、詳細な調査を行うときのデータ取得方法があります。

Rev 0.6: 2016/3/1

Windows 編

● ftDataCollector ログ収集ツールによるログの取得

1. ftDataCollector

ftSSS 4.1 以降には、ftDataCollector と呼ばれるログ収集ツールがftServer に標準でインストールされています。この処理の実行には数分から数十分かかります。また若干のCPU 負荷がかかりますので、負荷の低い時間帯に実施することが推奨されます。

次のフォルダ内にあるftDataCollector.exe を開きます。

ftSSS 4 以前: C:\Program Files\Stratus\CustomerService\SupportTools

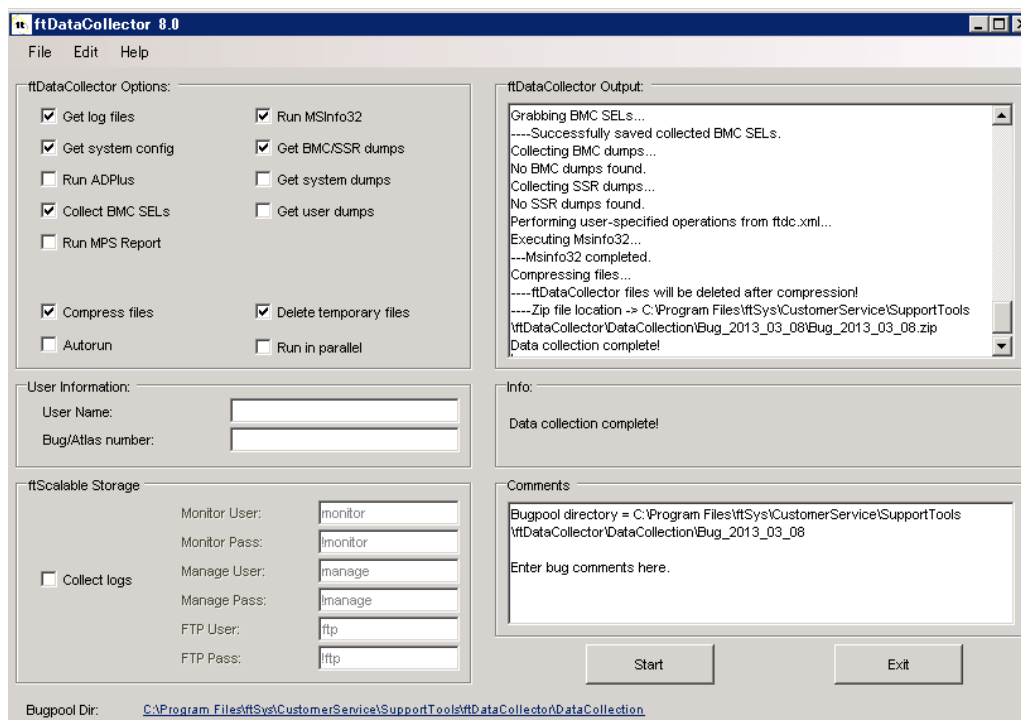
ftSSS/AUL 5 以降: C:\Program Files\ftSys\CustomerService\SupportTools

- ftSSS/AUL(※1)の確認はftSMC(ftServer管理コンソール)を開き、ftServer > ftServer Configuration > Customer Infoをクリックして右側に表示されるftServer Releaseで確認できます

※1 ftSSSの名称はバージョン8以降でAULに変更されています。

※2 ftDataCollector V 7以降は、ビルトインadministratorのアカウントでない場合、ftDataCollectorが正しく起動しません。その場合は右クリックメニューの“管理者として実行”から開いてください。

【ftDataCollector V 7以降のサンプル画面】



通常取得時は上図のようにチェックを入れて、Start ボタンをクリックします。

- Get log files
- Run Msinfo32
- Get system config
- Get BMC/SSR dumps
- Collect BMC SELs
- Compress files
- Delete temporary files

オプション:

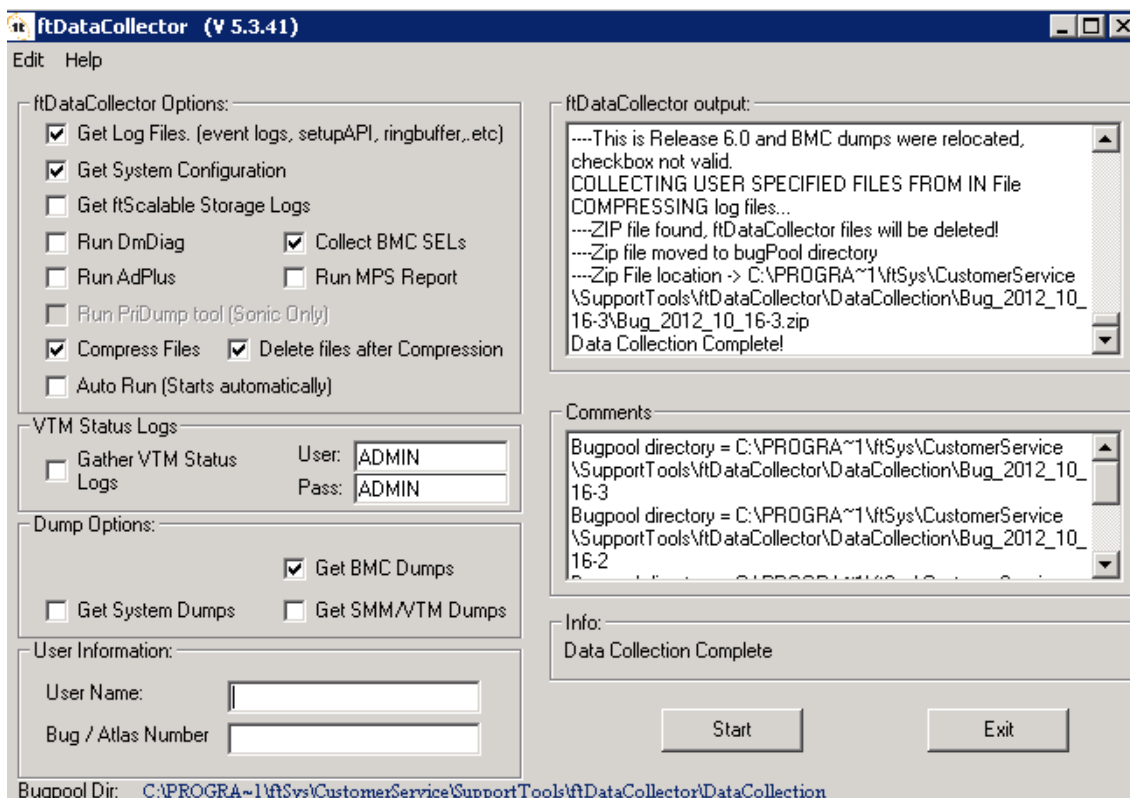
- Get system dumps
システム・クラッシュ等でメモリ・ダンプ・ファイルが作成されている場合には、“Get System Dumps”にチェックを入れてください。(生成されるログ・ファイルのサイズが大きくなりますので、ご注意ください。)

- Run MPS Report
マイクロソフト社にWindows OS の問題の調査を依頼する場合には、MPSreport の取得が必要となります。この場合には、“Run MPS Report”にチェックを入れMPSreportを実施してください。

なお、fSSS/AUL のバージョンにより、表示される内容が多少異なることがあります。

作成されたログは図の下部に記載された“Bugpool Dir”のパスに Bug_xxx の名前で保存されます。

【ftDataCollector V 6以前のサンプル画面】



通常取得時は上図のようにチェックを入れて、Start ボタンをクリックします。

- Get Log Files
- Get System Configuration
- Collect BMC SELs
- Compress Files
- Delete files after Compression

オプション:

- Get System Dumps
システム・クラッシュ等でメモリ・ダンプ・ファイルが作成されている場合には、“Get System Dumps”にチェックを入れてください。(生成されるログ・ファイルのサイズが大きくなりますので、ご注意ください。)
- Run MPS Report
マイクロソフト社にWindows OS の問題の調査を依頼する場合には、MPSreport の取得が必要となります。この場合には、“Run MPS Report”にチェックを入れMPSreportを実施してください。

なお、ftSSS のバージョンにより、表示される内容が多少異なることがあります。

作成されたログは図の下部に記載された“Bugpool Dir”のパスにBug_xxx の名前で保存されます。

● ログデータの個別取得方法

次の方法でログを取得します。

2. Windowsのシステムイベントログ及びアプリケーションイベントログをevtx(evt)及びcsv形式で取得します。

- 2-1. [スタート]-[管理ツール]-[イベント ビューアー]-[Windows ログ] を開きます。
- 2-2. [システム] を右クリックし、[(すべての)イベントに名前をつけて保存] を開きます。(「アプリケーション」についても同様です)
- 2-3. [ファイル名] を入力します(例:system など)
- 2-4. [ファイルの種類] を選択します。(evtx(evt)及びcsv形式で保存してください)
- 2-5. [保存]ボタンをクリックします。
- 2-6. Windows Server 2008 以降は、[表示情報なし]にチェックをいれ、「OK」をクリックします。

3. Windowsのシステムイベントログ及びアプリケーションイベントログをdbg形式で取得します。

- 3-1. コマンドプロンプト(※3)を開き下記パスへ移動します。
ftSSS 4 以前: C:\Program Files\Stratus\CustomerService\SupportTools
ftSSS 5 以降: C:\Program Files\ftSys\CustomerService\SupportTools
 - ftSSS/AUL(※4)の確認はftSMC(ftServer管理コンソール)を開き、ftServer > ftServer Configuration > Customer Infoをクリックして右側に表示されるftServer Releaseで確認できます。
- ※3 Windows Server 2008以降はビルトインadministratorのアカウントでない場合、コマンド実行時にエラーが出力されます。その場合は“管理者として実行”から開いてください。
- ※4 ftSSSの名称はバージョン8以降でAULに変更されています。

- 3-2. 次の例のようにコマンドdbgを入力します
(プロンプトがdbg: buffもしくはdbg: virtに変わります)。
C:\Program Files\ftSys\CUSTOMERSERVICE\SUPPORTTOOLS>dbg

- 3-3. 次の例のようにコマンドnt_dump_evlogを入力し、quitで抜けます。
dbg: buff> nt_dump_evlog apl.txt application
dbg: buff> nt_dump_evlog sys.txt system
dbg: buff> quit

- 3-4. カレントディレクトリ内に作成されたイベントログファイル(apl.txt、sys.txt)を取得します。

4. ring_bufferログを取得します。

4-1. エクスプローラで以下のディレクトリへ移動します。

ftSSS 4 以前: C:\Program Files\Stratus\management\logs

ftSSS 5 以降: C:\Program Files\ftSys\management\logs

4-2. ring_buffer.*のテキストファイルをコピーして取得します。

ring_buffer.*がない場合は下記の方法で手動で取得してください。

a. コマンドプロンプトを開き下記パスへ移動します。

ftSSS 4 以前: C:\Program Files\Stratus\CustomerService\SupportTools

ftSSS 5 以降: C:\Program Files\ftSys\CustomerService\SupportTools

b. 次の例のようにコマンド dbg -r funcs を入力します。

```
C:\Program Files\ftSys\CUSTOMERSERVICE\SUPPORTTOOLS>dbg -r funcs
```

c. 画面への出力が止まるまで待ちます。

d. カレントディレクトリ内に作成されたrb.txtを取得します。

e. quitで抜けます。

● 詳細なデータ取得方法

Stratus のサポート・センタより、必要に応じて次のログ・データの取得を依頼することがあります。

5. logs フォルダ

次のフォルダ内のログファイルをフォルダごとコピーして取得します。

ftSSS 4 以前: C:\Program Files\Stratus\management\logs

ftSSS 5 以降: C:\Program Files\ftSys\management\logs

6. ftSMC 情報のエクスポート

ftSMC を開き、+マークでノードを展開し、対象のノードをクリックすると右側に詳細な情報が表示されます。この情報をテキストファイルに保存することが出来ます。

6-1. 情報を取得する対象のノードを右クリックし、一覧のエクスポートを選択します。

6-2. 「一覧のエクスポート」にて任意のフォルダに対象のノードと分る任意の名前を付けて保存します。

7. メモリ・ダンプ・ファイル

C:\sradumps(またはC:\ftSysDump)に保存されている、MEMORY<番号>.DMPファイルとMEMORY<番号>.TXT ファイルを取得して下さい。

8. VTM ログ

ASN やVTM の問題が発生した場合は、VTM のログを取得します。

VTM のログは次の方法で取得します。

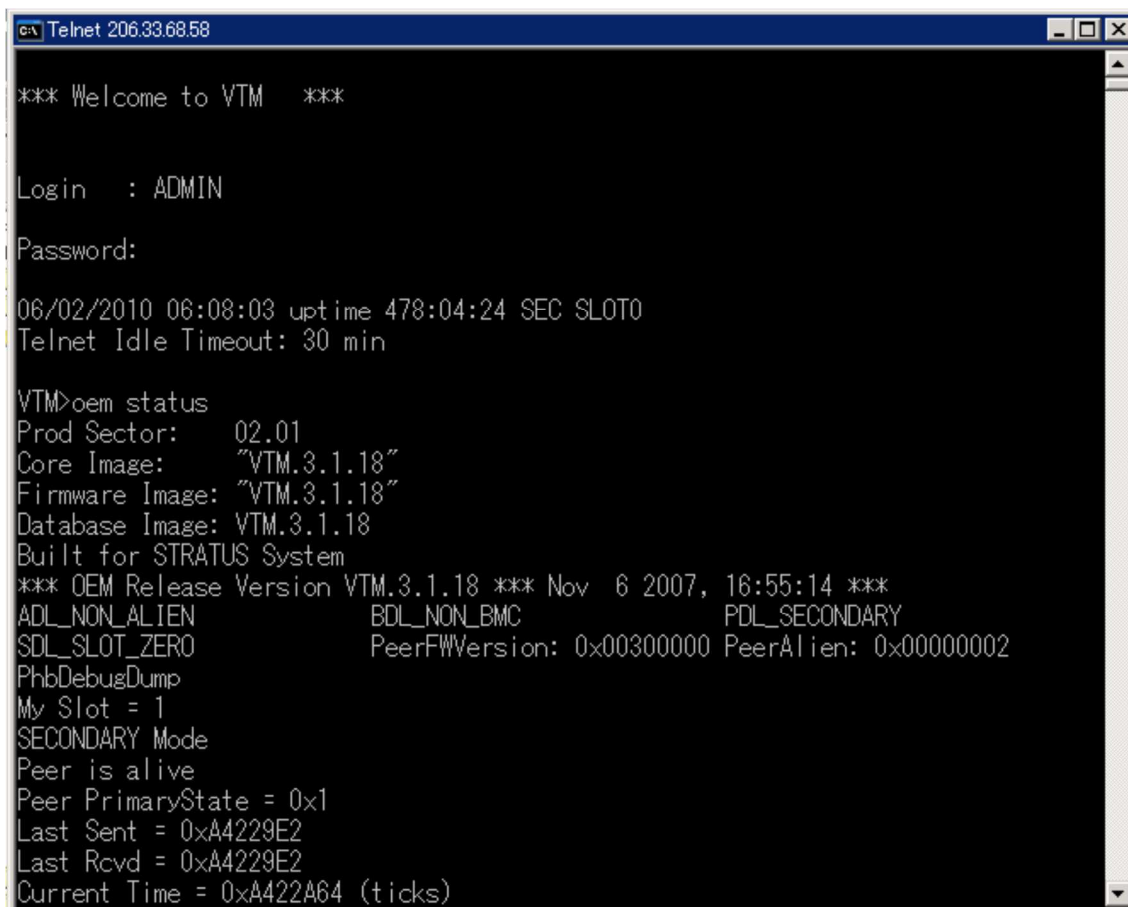
8-1. ftSSS 4及び5の場合

8-1-1. コマンドプロンプトを開き、VTM にtelnet でログインします。

デフォルトのログイン・アカウントはADMIN、パスワードはADMIN です

8-1-2. コマンドoem status を実行します。出力内容をNotepad などにコピーして取得してください。なお、コマンドプロンプトのバッファ・サイズが小さい場合には、出力が上書きされてしまいますので、あらかじめプロパティでバッファ・サイズを調整してから実行してください。(コマンドプロンプトのプロパティから画面バッファのサイズの高さを変更します)

8-1-3. コマンドexit でログアウトします。



```
Telnet 206.33.68.58

*** Welcome to VTM ***

Login : ADMIN
Password:

06/02/2010 06:08:03 uptime 478:04:24 SEC SLOT0
Telnet Idle Timeout: 30 min

VTM>oem status
Prod Sector: 02.01
Core Image: "VTM.3.1.18"
Firmware Image: "VTM.3.1.18"
Database Image: VTM.3.1.18
Built for STRATUS System
*** OEM Release Version VTM.3.1.18 *** Nov 6 2007, 16:55:14 ***
ADL_NON_ALIEN BDL_NON_BMC PDL_SECONDARY
SDL_SLOT_ZERO PeerFWVersion: 0x00300000 PeerAlien: 0x00000002
PhbDebugDump
My Slot = 1
SECONDARY Mode
Peer is alive
Peer PrimaryState = 0x1
Last Sent = 0xA4229E2
Last Rcvd = 0xA4229E2
Current Time = 0xA422A64 (ticks)
```

8-2. ftSSS 6及び7の場合

8-2-1. コマンドプロンプトを開き、VTM にtelnet でログインします。

デフォルトのログイン・アカウントはADMIN、パスワードはADMIN です。

8-2-2. 次のコマンドを実行します。出力内容をNotepad などにコピーして取得してください。なお、コマンドプロンプトのバッファ・サイズが小さい場合には、出力が上書きされてしまいますので、あらかじめプロパティでバッファ・サイズを調整してから実行してください。

```
cd /  
version  
bs 0  
bs 1  
cd /map1/nic1  
show  
ifconfig -a  
netstat  
arp -a  
cd /sra/dbl  
list  
print  
cd /sra/ssm  
getsystemstate  
cd /sra/act  
actstatus  
cd /sra/asn  
asnstatus
```

8-2-3. コマンドexit でログアウトします。

以上